

# 夢窓 幼稚園通信 第6号

2026年 4月 30日

最寄りの幸盤駅を含め「嵐電北野線」(白梅町～  
帷子の辻)が開通してから、100周年を今年  
迎えたそうです。

地域の脚として私たちの生活を支えてくれている  
愛らしい嵐電が、長寿にして現役で、大きな節目を  
迎えられたのは、ほえほうに悦ばしいことだと思います。  
おそうようちえんは、5月6日に72歳になりますから、  
第1期生からこの電車を眺めたり乗せてもらい、皆  
大きくなった「同じ電車に乗るなかま」なのですね。  
こんな風に様々なものや働きに見守られ、励まされ、  
支えられ大きくなっていく子どもたちであり私たちです。

「大きくなる」…様々な変化を通して日々子どもたちが  
大きくなっていることを実感させてもらっていますか。年長  
さんになった頃から小学生にかけて始まる「歯の生えかわり」  
は決定的な変化の印です。

身体の中で最も硬いのは「歯」ですが、鉄やガラスより  
硬く、骨の倍ほど強いようです。その歯が生えかわる  
ということは、乳幼児期に身体の諸器官を「遺伝的な  
力に導かれて形成していく」という作業の仕上げのとき  
を迎えたということなのです。別の言い方をすると、  
遺伝の力を超えて自らの成長のプロセスに従い生き  
始めたということになります。

幼稚園は一人ひとりのそんな壮大なドラマが展開  
する場なのだ…ひとつひとつの環境や私たちの  
表情や言動が子どもたちの内臓や脳などの器官形成  
につながっている…と自覚しつつ、こいのぼりのように  
子どもたちを見守りたいと思っています。

園長 弁光 泰雄

